

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

小学校の英語教育が変わる 各市独自の取り組みを実施

2020年度から、小学校の英語教育が変わる。これまで5年生から必修だった英語の学習が3年生から必修になり、小学校5、6年生では「教科」として成績がつく。今年度はその移行期間として、3年生から英語学習がスタート。今回は小学校の英語教育について、各市の取り組みや課題を取材した。



西宮市における、担任教員による英語の学習。



神戸市 ALTと一緒にアルファベットカルタを楽しみながらコミュニケーション活動を行う。

外国人の指導助手を積極的に活用

神戸 戸市では、2011年より小学校3年生から英語の学習がはじまっている。現在は、政令指定都市の中で最も多い約130名のALT(外国人英語指導助手)を市内全小学校に派遣し、児童が実際に英語表現を使える場を提供。給食を一緒に食べるなど、授業以外の日常会話も重視、子どもたちが楽しく英語に触れ、積極的にコミュニケーションが図れることを目的としている。西宮市では、一部のモデル校で早くから英語学習を行っていたが、2012年から全5・6年生でALTを活用した英語学習をスタート。また、2009年からは全教室に大型テレビを設置し、英語の時間にも音声や動画で学べる環境を整えている。芦屋市でも今年度からはALTの活用をはじめ、主にリスニングやスピーキングの

授業が行われている。芦屋市の担当者は「ALTの活用ははじまったばかり。どのようなカリキュラムが子どもたちに適切なのか、試行錯誤している」と話す。

外大と提携、地域人材の活用で指導力向上を目指す

神戸 戸市、西宮市、芦屋市の3市とも、教員の指導力向上を課題のひとつにあげている。神戸市では、神戸市立外国語大学と提携し、小学校教員に向けた英語学習の教授法の研修や出張講義などを実施し、レベルアップを図る。西宮市では、ALTを活用した授業実践の研修を実施。神戸市や芦屋市では、ALTのほか、海外生活経験者や、英語教員経験者など、英語が堪能な地域人材も活用。担任の補助的な役割で、英語指導の支援を行う。



地域人材を活用した芦屋市の授業の様子。

独自性ある北摂の取り組み

北 摂各市では、1年生からの英語学習やALTの活用を実施している市が多い。授業として時間割に組み込むほか、始業前の朝のホームルームを活用するなど、工夫を凝らす。そのほか、全学年が1日を通してALTと英語を体験するイベントを開催したり、全校で4

技能を測定する民間の英語検定試験を導入するなど、独自の取り組みも目立つ。一方で、教員の指導力向上など共通した課題は残る。子どものみならず、教員も英語に慣れるために、中学校の英語教員が小学校で授業を行っている市もある。池田市は、「歌やゲームで英語を楽しむことを目指したこれまでの英語活動から、教科化することで評価の方法も変わっていく。その中で、子どものやる気をより伸ばすことができるよう、英語を使って誰かとつながる喜びを感じられる指導もこれまで通り大事にしたい」と話す。



高槻市で実施している、1、2年生の短時間学習「ショートイングリッシュタイム」。週2回程度、始業前か5時間目の前の15分間を英語学習にあてる。

電気料金が活動資金に 西宮ストークス電力事業連携



電力事業サービス「NISHINOMIYA STORKS ハッピーエナジー」。西宮ストークスHPで受付中。
https://www.storks.jp/

男 子プロバスケットボールBリーグの西宮ストークスと、エネルギー事業を展開するシン・エナジー株式会社(神戸市)が、電力小売に関して事業提携契約を締結した。電力を同社の事業サービス「NISHINOMIYA STORKS ハッピーエナジー」に切り替えると、電気料金の一部が西宮ストークス

の活動資金となる。同社の担当者は、「私たちは子どもと大人と一緒に楽しめるスポーツの発展に寄与したいと考えています。地域のみなさんとともに西宮ストークスを応援したい」と共感を呼び掛ける。

保育施設入所の質問に自動回答



市HPの「子ども・子育て支援新制度」のページから利用できる。

神戸 戸市は、保育施設入所に關する質問に、自動で回答するシステムの運用を5月10日から開始した。ホームページ上の検索窓に知りたい事柄の単語を入れると、該当する回答例が表示される。これまで、開庁時間での対応しかできなかったが、24時間・365日対応が可能となる。

混み込んだ質問や回答が登録されていないものは、コールセンターの連絡先が表示される。市の担当者は「今後、運用実績を見ながら回答数などを増やしていき、より利用しやすいシステムへ随時更新していく」としている。

神戸市 子どもの銭湯料金が無料に



経 営者の高齢化などが原因で地域から減りつつある銭湯。人々の交流の場となり、また災害時には避難者へ入浴機会を提供する役割があることから、神戸市浴場組合連合会と神戸市は昨年9月、「地域の銭湯の活性化に向けた協定」を締結した。その一環で今年度は若年層の利用を

促そうと「子育て世帯の銭湯利用促進事業」を実施。18歳以下の子どもと親(または祖父母)と一緒に銭湯を利用する場合、子どもは無料、子ども一人につき親(または祖父母)一人が通常料金430円が210円になる。利用開始月の前月15日(必着)までに申し込みが必要。詳しくは市ホームページで「銭湯」を検索。

ごみ収集車の火災が発生 ごみ出しルールの遵守呼びかけ



火災現場。

芦 屋市内にて、4月19日ごみ収集車内のごみが発火した。けが人や収集車の破損はなかったが、市ではごみ出しルールの遵守を呼びかけている。発火したのは、引越しごみなどを集める一時多量ごみの収集車。焼け跡からガスボンベやスプレー缶が複数見つかったことから、缶に残ったガスが

収集車の中で漏れ出て、摩擦で発火したことが原因と見られている。同市では、ガスボンベやスプレー缶は一時多量ごみ(有料)でも収集しているが、「その他燃やさないごみ」の指定日に出すことが基本。使い切った上で、他のごみと分けて中身が見える袋に入れるよう呼びかけている。